

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ベルリー			
○保護者評価実施期間	令和7年12月 1日 ～ 令和7年 12月26日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数)	21
○従業者評価実施期間	令和7年12月 1日 ～ 令和7年 12月26日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月27日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援現場の安全性と誠実な対応	子どもたちの安全が最優先で守るための意識作り 職員間での共通言語・安全意識作りのための研修 トラブル発生時の速さと誠実な対応 発生・記録・処置・対応・報告・保護者連絡のフローの徹底	看護師による応急手当に関する指導 法令理解への啓発 保護者だより・保健だよりを通じて、事業所の安全対策への周知
2	チーム支援の質 ・運動療育、個別療育の充実 ・生活スキル獲得へ向けた支援者全員の共通した支援方法 ・保護者への丁寧な対応・態度 ・イレギュラー対応	毎月の職員研修による、4つの軸となる支援理論の理解 お子様を観察する為の一定のスケールや共通言語のとりきめ フォーマルアセスメントの導入・評価・共有 日々のMTGやケース会議での振り返りと情報共有 ベルリー支援者としての行動・判断基準の共有(理念に基づいているか)	関係機関を含めたチーム支援に充実をはかる為、計画策定会議やケースが意義などへの参画を依頼していく 保育園・幼稚園等に利用者の生活状況聞き取りシートの記入を依頼して、利用者を取り巻くすべての機関と連携できるようにネットワーク作りを行う
3	関係機関との積極的なやりとり	共有した方がよい事は聞く・話す・確認するを徹底する。 お互いに忙しいので、色々なツールを使って情報共有を図る 内容のあるモニタリング・サビ担会にするために、必要であれば事前に打ち合わせを行う 相手のやり方を責めたり、批判絶対にしないが、常に	相手の土俵で関係性を深められるように、積極的に訪問する 情報共有のツールの見直し 相手から一定の情報を引き出すテンプレの作成

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員体制の確保	常勤職員不足 急な欠勤 離職の多さ	人員確保 育成フローの見直し 職場の心理的安全性の保障された雰囲気づくり 時間的ゆとりを生み出すための業務の見直し 職員のメンタルへのフォロー
2	移行支援のカリキュラムが不十分	就学先・就園先との連携がはかりにくい (セルフプランの利用者は特に) サポート手帳のメリットの周知が進まない	保護者の不安や心配ごとを把握して、連絡を密に取りながら、移行先との連携を図れるようにしていく。 対面での情報共有が難しい場合は、支援の状況として書面で情報提供をしていく。 就学サポートブックのブラッシュアップ

3	職員ごとのスキル・経験値のバラツキ	新人とベテランの差が出やすい 発達支援の専門性にばらつきがある 子ども理解の深さが均一になりにくい	職員研修での育成・振り返り 共有できる書籍などを用意 支援の共通言語の理解を進める ケース会議の際に対話を通じて、意見を出し合い、 経験からだけでない色々な視点の拾い上げをしていく 支援ではこうあるべきは捨てる
---	-------------------	---	--

公表 各等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ベルリー

公表日 令和8年 3月 1日

利用児童数 23人 令和7年 12月 1日

回収数 21

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	19	2				
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	19			2		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。	20			1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。	20			1		
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性の高い支援が提供されていると思いますか。	21					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と一致していると思いますか。	21					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に把握されていると思いますか。	21				関わりが詳しく書かれていて、家での関わりで大変参考になります。	引き続き、各お子様の成長に見合った目標やかかわりを計画に盛り込んでいけるように努めてまいります。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援内容」が盛り込まれていると思いますか。	20			1		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	20			1	ベルリーさんに通うようになって、ジャンプやトイレなど色々なことができるようになり、感謝しています。	今後も保護者の方に同意していただいた支援計画を基に、丁寧なチーム支援をさせていただきます。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	19			2		
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の事業所等との交流が活発に行われていると思いますか。	7	4	1	9	特に必要性を感じた事はないので、問題ありません。	園との併用をされている方が多く、ニーズは低いですが、地域交流として今後検討していきたいと思います。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担金等が明示されていると思いますか。	21					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされていると思いますか。	21					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング)が提供されていると思いますか。	10	3		8	研修案内やイベントのチラシの配布などしてもらっている。	現在事業所が主催する研修(ペアトレ)は開催しておりません。再開していけるように、企画していきたいと思います。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況を確認していると思いますか。	21				支援内容を動画で送ってくださるので、どういう事をやっているのかわかりやすいです。	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われています。	19	2				

保護者への説明等	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	20	1				
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同	8	3	2	8	秋祭りなども含まれるのであれば、設けられていると思う。	保護者会につきましては、ご負担を感じる保護者様もいらっしゃるもので、秋祭り以外にも、交流の場を持てるように今後努めてまいります。
	19	こどもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備さ	18	1		2		
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされ	21					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、	20	1			プライバシーもあると思いますが、お便りの写真がもう少し大きいと、支援の状況がわかりやすいです。	来年度以降、お便りの形式を検討し
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	21					
	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯	19	1		1	マニュアルは見つからないですが、避難訓練や引き渡し訓練などは行われています。	各種マニュアルやフローは玄関脇に据え置きされており、手に取って頂けるようになっています。今後はお便りなどでもお伝えさせていただきます。
非常時等の対応	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他	20			1		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知さ	20			1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな	20			1	我が子はけがをしたことがないので	
	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	20			1	よく褒めてくれるので、嬉しいで す。 嫌がることなく通っています。	安心して通って頂くことが、支援の土台になることを忘れずに、支援をさせていただきます。
満足度	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	19	1		1		
	29	事業所の支援に満足していますか。	21					

公表 所における自己評価結果

事業所名		公表日				
ベルリー		令和8年 3月1日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		年齢や体の発達の様子で、利用者の部屋を分けたり、個々の集中度や視覚からの刺激に応じて、個別療育の部屋を選んでいく。	年齢や発達特性によっては、スペースが必要と感ずる場合は、専用の庭を使って運動などを行っていく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切か。	6			配置数は適切であるが、急な欠勤や体調不良などで送迎の時間の変更等を依頼する事がないように、配置数を検討していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。	6		場所や手順を視覚化・構造化に努めている。安心して過ごしてもらえるように、工夫を行っている。	個々に伝わっているかのPDCAを行い、自己満足にならないように職員で検証を怠らないようにしていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。	6		日々の清掃・消毒を行い、感染症拡大防止に努めている。年齢や特性に応じたグループ課題を行えるように室内を整えている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することになっているか。	6		カームダウンが必要な場合は、個々の状態を見極め、職員が付き添って個別で過ごせる体制は整えている。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)が実施されているか。	6			目標設定の振り返りが曖昧なままになっている項目もあるので、PDCAサイクルを意識していく必要がある。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会が設けられているか。	6		評価後、検討会議を行い、ニーズの把握や評価を全員で共有するようにしている。	評価表だけでは、本来のニーズを引き出しにくいので、モニタリングの機会にも意見を聞かせていただくようにしていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		朝夕のMTG 4か月に一度の上司とのアクションプラン面接は個別に意見を言う機会にもなっている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6		今後検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や方法が確保されているか。	6		事業所内で毎月1回の研修日を設けている。研修案内は回覧として周知をしている。研修費用は、会社が全額負担を行っている。	平日の日中の時間帯の研修は参加しづらい現状があるので、参加希望に応じられるような職員体制を整えていく。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6			計画策定後の会議でより活発な意見交換ができるように、支援者の支援スキルを高めていけるように研鑽していく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもの発達支援計画を作成しているか。	6			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者の承認を得ているか。	6		案を立案後、支援計画策定会議を開催して、職員の共通理解をはかっている。会議欠席者にも情報が伝わるようにしている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が実施されているか。	6			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いて評価しているか。	6		太田ステージ、KIDS、JSI-Rのアセスメントツールを導入している。	

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児	6		ガイドラインが新しくなった場合は、 回覧で職員に周知を図っている。	支援者全員の理解度が一定の基準を超えていけるように、定期的にガイドラインに目を通していける様に働きかけていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		日々の運動療育、園外保育、クッキング保育などの計画・立案は担当者を軸にして、チームで行っている。個別療育のねらい・内容は児発管が立案し、提供する教具についてはチームで検討して毎日提供している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		リーダーは日替わりで行い、イベント担当者も毎回変わって取り組み、個々の支援者のアイデアを活かせるようにしている。	安全・安心の土台は常に意識をして支援をさせていただく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ	6			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われ	6		毎朝の5分程度のMTGを行う。送迎終了後は、送迎の際に得た情報を共有するようにしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われ	6		毎日15分～30分程度のMTGを行っている。療育の様子、利用者を含む関係者の様子などを報告し、支援の方向性を職員間で共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証	6		連絡帳・支援日誌・強度行動障害児支援シートなどの記録を行っている。	支援の継続として、情報を使用しているが、中々検証・改善までに至っていないので、今後努めていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直し	6		6カ月に一度のモニタリングを実施している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関と	6		児発管が参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉	6		相談支援事業所、幼稚園・保育園・こども園等の教育機関との連携が多い。相互に訪問をして情報交換を行っている。	より関係機関との連携が広がっていけるように、事業所からの働きかけを積極的に行っていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョ	6			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)と	6		保護者の許可を得て、相談支援事業所に共有の機会を提案したり、依頼を受けて小学校に訪問して情報共有を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
31	(31は、事業所のみ回答)					
	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じ					

	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこども	6	児童館の利用や、園外保育で公園に出かけたりしているが、交流には至っていない。	今後、機会を設けていけるように、実際に行っている事業所の様子などを検証していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達	6	連絡帳や、直接お話しできる機会捉えて、成長と共に変わっていく課題やねらいについては共有するように努めている。	送迎利用をされている保護者の方とは、頻度が低くなってしまっているのので、連絡帳等で丁寧にお伝えしていく。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラ	6		ベアトレが再開ができるように、職員の研修受講を推奨してまいります。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な	6		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意	6		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い	6		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適	6		
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、	6	秋祭りでは保護者やきょうだい児を招待して交流をはかっている。	十分とは言えないので、今後検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制	6	児発管が主になって対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用する	6	ベルリー便り、保護者だより、保健だよりの発行。フェイスブックの投稿等。連絡体制としては、LINEを使用している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	写真や動画の掲載については、留意を行っている。個人情報の取り扱いのルールは、入社時に指導をして、管理を徹底している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のた	6	職員間で支援者としての共通言語を作り、相手に伝わり、相手をリスペクトする姿勢・態度を育てている。	引き続き、職員が意識付けていけるように、定期的に「支援者としての姿勢」について研修を行っていく。
非常時等の対	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図	6		地域参画を目指して、情報収集や関係機関連携を図っていきます。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニ	6	事業所玄関に掲示している	保護者の方が実際に手に取っている様子はないので、掲示するだけでなくマニュアル概要をお便りなどで周知していく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発	6	安全計画の年間計画の中にBCP訓練・研修を入れ込み、実施している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況	6	契約の際のアセスメントで聞き取りを行っている。	様式を作ってほしいとしたその情報が入手でき、職員が確認しやすい保管方法を考えていく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基	6	おやつ提供準備をする部屋に、個人名・除去が必要な食品を一覧にして掲示して誤食がないようにしている。	現在は医師の指示を保護者から聞き取ったので対応しているので、今後検討していく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他	6		

<p>対応</p>	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよ	6		保護者だよりでお伝えしている。	安全計画という文言を使ってはいないので、今後使用して、保護者への周知を図っていく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策	6		3カ月に一度、ヒヤリハット事例に対して検討会議を行い、他事業所と共有して再発防止に努めている。	各児の判断に齟齬がうまれないように、マニュアル化して、対応や判断基準を一手にしていこう様にフロー整備を行う。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切	6		虐待防止委員会を2事業所合同で行って、事例検討を行っている。また研修も合同で行い、虐待に関する指針のズレが出ないようにしている。動画研修も行っている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、	6		3カ月ごとの検討会議を設け、個々の身体拘束の必要性を検討している。	